

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	25	学校名	大垣養老高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	社会の中でよりよく生き、豊かな人生を切り拓くための教育を実践する高校として それぞれの学科の特長を活かした地域と連携した探究的な学びを通して 生徒の良さや可能性を磨き、地域産業に貢献できる社会の創り手の育成を目指す学校
------------------------	---

学校教育目標 (教育方針)	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな基礎学力と専門的な知識・技術や資格を取得し、課題解決力と創造力を身に付けた生徒</li> <li>自ら考え、他者を尊重し、協働して目標達成に向けて行動できる、地域の担い手となる生徒</li> <li>明るく元気で、挨拶ができ、社会のルールやマナーを守る態度を身に付けた生徒</li> </ul>
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題研究」や「総合的な探究の時間」を中心とした課題発見力・課題解決力の育成と、地域に開かれた教育課程・地域連携学習の推進</li> <li>一人一人の生徒が自己肯定感をもって活躍できる、より多くの学びの機会を設定</li> <li>生徒一人一人の多様なニーズを把握し、総合学科と農業科の特性を生かした個に応じたきめ細かな指導の推進</li> </ul>
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>好奇心・向上心：専門科目を学ぶことに興味があり、自分の良さと夢を見つけ努力できる生徒</li> <li>協働する心：他者を尊重し、他者とともに学ぼうとする素直な姿勢を持った生徒</li> <li>社会への関心：地域の活動や部活動に積極的に参加しようとする意欲を持った生徒</li> </ul>

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣や自ら学ぶ意欲や態度の確立</li> <li>総合学科の運用組織改編と総合学科独自科目である「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の学習スケジュールの構築</li> <li>働き方改革の観点からの行事精選と業務のスリム化</li> <li>総合学科と農業科が連携した教育共同事業</li> <li>学びの多様なニーズに応える環境の充実</li> </ul>
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	地域連携、地域貢献、地域共生を推進し、地域と共に歩む学校を目指す。 教職員の働きやすい職場環境づくりを推進する。
	学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自ら学ぶ意欲や態度を育てる。 全ての生徒に質の高い教育を推進し、よりよく生きる力を育む。
	進路指導	キャリア教育を推進して、生徒の自己肯定感・自己有用感を育み、主体的かつ計画的な進路選択を促し、社会的職業的自立を支援する。
	生徒指導	信頼と友情に基づく生徒理解に徹し、自己指導能力の育成に努める。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	地域貢献、地域連携、地域共生、地域資源の活用を推進する。	施策Ⅰ-4	○保護者、生徒による学校評価アンケート結果 ○各種会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献や連携、地域共生、地域資源の活用のため、特別非常勤講師との取組は良好</li> <li>西濃農林事務所や指導農業士連絡協議会西南濃支部との連携事業の推進</li> <li>農業科と総合学科の生徒協同学習実施</li> <li>他の部活動の応援、ボランティア活動参加</li> <li>総合学科部会に初めて農業科職員が参加し双方の理解を深めた</li> <li>外部の農場管理支援員の活用による働き方改革の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲校内での特別非常勤講師との取組だけでなく外部に向けた催事企画、実施を考えた。また、総合学科部として、次年度は教務部企画担当と連携して実施を企画したい。</li> <li>○他の部活動の大会へ積極的に応援参加する部が多く刺激を受け各々部活動に活かされた。</li> <li>(学校アンケート保護者23 あてはまる87%)</li> <li>○ストレス指数が前年と比較して下がり、風通しの良い職場環境が整った。</li> <li>(ストレスチェック 教育委員会6.9% 本校3.5%)</li> </ul>	B
	HR活動、部活動、ボランティア活動の充実を図る。	施策Ⅰ-5					
	「教育共同事業」として、農業科と総合学科教員と生徒双方の理解と協働を深める。	施策Ⅳ-20					
	働き方改革を踏まえて学校運営の改善を進める。	施策Ⅳ-27					
学習指導	基礎的な学力を身に付けさせるための授業改善と家庭学習時間の増加の推進を図る。	施策Ⅱ-9	○保護者、生徒による学校評価アンケート結果 ○生徒による授業アンケート結果 ○公開授業における参観者との意見交換 ○指導と評価の年間計画の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で宿題や長期休暇課題を計画的に作成し、学習習慣の定着</li> <li>授業と考査の重要性を生徒・教員で共有し定期考査に向けた学習指導を強化</li> <li>後中間考査後、成績不振者への指導を前倒して実施して学習改善</li> <li>学科の専門性を活かした総合的な探究の時間や課題研究の推進と外部の研究活動発表会への参加</li> <li>ICT活用を一部教科で授業に取り入れ、評価方法の改善のため教員間で情報共有</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲学習習慣はまだ十分ではなく、継続的な指導が必要。</li> <li>○「授業が分かりやすい」との評価が得られた。(学校アンケート生徒7 あてはまる90%)</li> <li>○授業と考査を大切にす意識と成績不振者への早期指導の重要性を教員・生徒と共有。</li> <li>▲ICT活用は評価が低く活用方法の改善が課題。(学校アンケート保護者12 あてはまる68%)</li> </ul>	B
	課題解決学習の充実に向けた学びの質の向上に取り組む。	施策Ⅱ-8					
	観点別学習状況の評価を行うための授業改善と実施方法の研究と工夫を重ねる。	施策Ⅱ-8					
進路指導	キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進と外部教育力を活用したキャリアガイダンスの充実を図る。	施策Ⅱ-13	○就職内定率及び進学合格率 ○生徒・保護者の各アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎トレを通して、基礎学力・一般常識の習得に向けた主体的な取組体制を構築</li> <li>小論文指導、面接指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促進</li> <li>外部講師を招いた進路講話を学年別に実施し、今すべきことを明確化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め自立心を育み、大半の生徒が第一志望への合格を果たした。(学校アンケート生徒15 あてはまる91%)</li> <li>▲将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立して1年生から高い進路目標を掲げて着実に努力を継続できる人材育成を図りたい。2年生は、より高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて進路実現を図らせたい。</li> </ul>	B
	進学・就職に対応した基礎トレ、小論文講座、面接指導、志望理由書指導の充実を図る。	施策Ⅱ-8					
	外部教育力を活用し、生きる力、職業観・勤労観、進路意識のさらなる向上を図る。	施策Ⅱ-13					
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	施策Ⅰ-1	○生徒・保護者の各アンケート結果 ○遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談や学年会と連携した指導の共有と徹底</li> <li>各種講話やLHR等での説話を通した安全と法令遵守の醸成</li> <li>各種アンケートの活用による実態把握と未然防止</li> <li>月1回の交通安全指導日、年2回の自転車点検</li> <li>MSリーダーズを中心とした交通安全啓発活動</li> <li>教育相談週間や心理検査等による生徒理解</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員「対話」が増え、共通理解のもとで生徒指導を行うことができた。</li> <li>○交通事故数減少が顕著(昨年度11件、今年度6件)、継続して安全指導に努める。</li> <li>○授業規律徹底と利用規定見直しで保健室・相談室来室生徒数が減少。(昨年度比43%減)</li> <li>○いじめや差別を許さず厳格に対応している。(学校アンケート生徒12 あてはまる84%)</li> <li>▲R7.4月から導入される「自転車運転法」への対応。(現在：ヘルメット着用者10名)</li> <li>▲より一層の情報モラル教育の充実。</li> </ul>	B
	人権、情報モラル、性教育、交通安全に関する講話(LHR)を実施する。	施策Ⅰ-2					
	交通安全指導の推進、危機意識の啓発による安全・安心な学校生活の実現を目指す。	施策Ⅲ-19					
	教育相談の充実及びチームサポートによるスクールカウンセリングの展開を行う。	施策Ⅰ-3					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月9日

<ul style="list-style-type: none"> <li>(教務) 授業と考査の重要性を引き続き共有し、成績不振者への早期指導の効果を検証して指導方法を改善</li> <li>(教務) ICT活用については、保護者アンケートの評価を踏まえ教員間で工夫を重ねて授業改善</li> <li>(図書) 生徒の「読書センター」「学習・情報センター」施設として、一層の充実</li> <li>(生徒指導) 自転車通学許可の条件にヘルメット着用を追加し、交通安全の推進</li> <li>(生徒指導) 生徒特性や背景を考慮した効果的な生徒指導の在り方、コミュニケーションスキル教育の充実</li> <li>(進路) 主体的な進路選択に結び付く、キャリア教育行事の実施、事前・事後指導の充実</li> <li>(進路) 早い段階での進路意識向上と、高い目標に向かっての努力の継続</li> <li>(特別活動) 部活動の活性化に向けて学校のリーダーとなって引っ張れる人材の育成、生徒主体の行事運営</li> <li>(保健厚生) 健康で安全な学校生活を営むことができる生徒の能力や態度の育成</li> <li>(渉外広報) 生徒、保護者それぞれの委員会の協働活動の工夫(例：あいさつ運動)、HP活用し研修報告(総合学科)「産社」から「総探」活動へと構築した成果と課題を次年度、より具体的活動へとつなぐ</li> <li>(農業部) 教科の専門性向上や生徒の人的成長を促しながら、さらに研究活動や地域貢献活動等を推進</li> <li>(寮) 入寮審査(誓約)時に、入寮目的を明確にして「自治意識」の向上を図る</li> </ul>
--

学校関係者評価 実施日：令和8年1月21日

<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろなコンテスト等で発表し、受賞していることについて報道で承知しているが、中には未来に必要なプラスになる内容もいくつかあり、感心した。将来、すぐに何か使える専門性ではないかもしれないが、「生きる力」はついていて感じる。先生方の指導、サポートが行き届いていることが伝わり安心した。</li> <li>○養老町主催「未来会議」への参加については、参加者から「若い人の考えはとても参考になる。高校生のお陰で活気のある会議となった。」などの感想があった。地域からの大きな期待があることをお伝えしたい。</li> <li>○大垣市役所ロビーの花飾りや花と緑のふれあい展など、地域に根差した学校として評価されている。地域に愛される学校として、引き続き教育活動のさらなる充実をお願いしたい。</li> <li>○県ブラジル海外実習派遣事業報告会があり、本校生徒が堂々と発表をしていたことを拝見でき嬉しかった。</li> <li>○今年度は公立大学への進学者がだが、国立(岐阜)大学へ進学できる、挑戦する生徒の育成を期待する。</li> <li>●教務の課題として、ICTやAIの活用とある。来年度入学生からタブレットは各家庭で用意すると聞いているが、情報産業躍進等、時代の要請に応えられる生徒の育成は重要であるため対応してほしい。</li> <li>●ヘルメット着用について「命を守る」ために非常に大切なことであるため、指導の徹底をお願いしたい。</li> </ul>
---